

甲合抄控一書

藤屋



一角最ノ通ニ似構ニ及共其後為ニ  
テノ返一玉也ニテモ一也

筒中ニ能ク以拂方ニ錢ニ寄ル

玉葉可及多利一玉葉ハ也也ニ寄ル

藤ノ一ノ筒ニ通ル葉常ノ通ニ以テ

繩ノ圓ニ通ル一也也類ニ寄ル

可也ナリト也

當時方別書有リト也

之放





之放

一平地角前へ通るはあまふ録  
昔の雅をさす

馬よ

一鞍の門がきかしたる澄も  
少一満るる腰をきく角前へか  
構可たれしころ考れぬあまふ  
し其のゆえあまふ角のクワツソク  
御さるるこは徳

狭間歩橋の妻

一録音の教も常しくゆき可たれぬあ  
おめしたるを揚第のさ橋よま  
時をいり程後をさすらうあ  
ありていさか成ふさりたるあ  
このおしとさしたるをさるに端は  
くちあり



このおもしろさをたのびを市に端達  
くちあう

### クワツソクノ楳橋ノ夏

一クワツソクノ楳橋ノ夏ノ系図

自地橋ノ可々ノ河ノ源部ナ

不慮に能ハククワツソク

ノ可憫ノ口傳

一菊吉提ノ玉紋ノ財ハカトモ玉

ツツノサノカノナリト傳

### 早合ノ玉葉ノ楳

事

一洗揚ノ玉葉ノ楳ノ羊ノ處ニ吾

入紙ノ後ノ合ノ玉葉ノ楳

皆ハ此ノ羊ノ和ヲ指スルナリ



入紙と教一に合を入紙茶込あり

皆右込時羊の紙と指をいふ

紙や紙も玉出ふ是を茶と紙

と申す一と國書ありと傳

右一を卷維為初度

能く生る紙に同合お傳

よめ

富山利兵衛



富山利兵衛

安政二年

乙卯八月十日

信存

為



岩越半三郎殿



岩越半三郎殿



秋野流種鳩甲合并様之卷

特別  
ヶ 5  
862  
7

37- 2247